

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

57

(開始ページ / Start Page)

192

(発行年 / Year)

1998-03-24

卒業生より

学舎を後にして

——俳句・短歌・自由詩・e t c :——

ゆく人の 跡をかき消す 雪後雨
ただ心の裡に 跡を残して

伊藤 央郎

名残り雪 一抹の思い残しつつ
我は去りゆく 市ヶ谷の学舎

藤ノ木 玲子

文学を カタスミに置きつ
社会のイチグウに

市田 貴子

文学の 眼を開かれし この地にて

田辺 エミ

桜散り 春風に乗り 我心飛ぶ

倉持 志麻

大学の 長き短き 四年間
得た物多し 学問と友

柄澤 祐史

一生なる 友と出会ひし 四年の
思ひを胸に 歩みゆく春

深田 和枝

外堀で 花見やらずに 卒業か
明日の出発 不安抱いて

武田 計良

酒呑んで 呑んで吞まれてまた呑んで

橋口 武士

外見よりも 心で決まる 人の価値

高塚 裕也

逗子からの 約二時間の小旅行
慣れても遠い 法政大学

大賀 さやか

二時間の 通学時間で得たものは
長き心と 暇つぶしの技

石井 美珠穂

入学式に もらったCD未開封

校歌歌えぬ 卒業式かな

詠み人知らず

四年間 校歌知らずに 卒業式

上野 美由紀

四年間 良い思い出を ありがとう

法政大学

菅野 良磨

あんぱん あんぱん 何が何でも

チーズあんぱん

矢島 淳子

四年間 アフターファイブは学業専念
こんな私は「学生のカガミ」

杉本 美穂

今春は 私にとって こうあるつもり

グッドファイナール ハッピースタート

吉崎 由美

つらい時 このアルバムが 私を救う

種部 真貴

お茶づけに コーヒーかけたら永遠とわの国

鈴木 弘美

ジーンズが スーツに変わり 春となる

平野 真理

卒論は 書いたら書ける 大丈夫

二宮 由佳

卒論が やっと終わった うれしいな

長野 奈津

あとはただ 卒業式を 待つだけよ

相原 宏美

外堀に 落ちないように 気をつけて

関口 郁

「ひとの幸せを願ひ

ひとの悲しみを憂う」

そんなのび太に

僕は なりたい

斉藤 雅

あなたは私の右や左でなく、

私の目の前で会った人なんだ。

運命なのか偶然なのか

わからないけど。

神尾 真生子

雖^モ迎春^ニ、未^ダ馥^ス東風^ニ

寒月^ニ、庶^{ハク}幾^キ遠地^ニ通^ス

我^ラ贈^ル友朋^ニ別宴^ニ盡^ス

嗟^{トシテ}、夢秋^ハ燦爛^{トシテ}非^レ隴^ニ

紺野 哲歳

——卒業にあたって——

平和に過ごせた四年間でした。もう
あの外濠の道を歩くこともめつたにな
くなると思うと、淋しいです。

松本 桃絵

大好きな源氏物語の新しいおもしろ
さを発見できたことが、私が大学生活
で得た一番の財産です。

小泉 亜紀子

いよいよ社会人となりますが、なる
べく社会不適合者にならない様に努力
します。

平川 一

法政大学に入って良かったこと

——奉納相撲が見られた

(相撲ファンの)青木 祥子

好きな言葉は捲土重来。部活は頑張
りよく飛んだ(航空部)が、勉強は…。
この不完全燃焼感は実社会で。

矢ヶ崎 正明

杉本先生のご退職記念

〈杉本先生へ〉

「徒然草」のゼミを取ること
に決めてから、十ヶ月ばかり立
ちました。色々なゼミの中から
このゼミを取ろう、と決めたの
は、杉本先生という存在も大き
なポイントだったと思います。
先生の第一印象は、「あっ！御
茶ノ水博士だ！」ということだ
りでしょうか。（気を悪くされたら
すみません。）いざ、話し出す
と、正に博士で、徒然草の豊富
な知識を駄洒落も交えながら、
惜しげもなく私達に教えてく
れました。また、先生には気難
しいところがなく、非常に気さ

くな人という印象も持つてい

ます。一度、先生が私達数人を
沖縄料理の店へ連れて行って
くれたことがあります。先生
は大学教授ならではの、私生活
もあっけらかんと話してくだ
さり、楽しく場を盛り上げてく
れました。個人的に忘れられな
いのは、本来ビールを注ぐ立場
の私が逆に先生についてもら
ってしまった事ですな。

（長谷川 美希）

私の大学生活の中で杉本先
生とのお付き合いは二年間だ
けでしたが、また機会がありま
したら、楽しい旅の話などをあ

の素敵な笑顔で語って頂きた
いなと思つています。

いつまでも若々しい心を持
つた先生でいて下さい。

（松本 玲）

なんだか、まだ話したらない
ので、またいつかのように沖縄
料理でも食しつつ、鬼について
語りましょう。（板垣 奈美）

〈杉本先生について〉

杉本先生は旅先でよく
学生をダメします。

旅行中に一緒のコイン
ロッカーを使わせてもら
った時、「カギをどっかに
失くしちゃった！」とウ
ソぶいては私をひどく慌
てさせました。

他にも、歴史的事実の

〈ゼミ意見〉

杉本先生って実は…

・糖尿なのに、アルコールを飲
んでいる

・昼間からよくビールを飲む

・担当授業が終わったら、イン
ドへ行ってしまった

・学会で毎回会っている
人の名前を知らない

・来年、美術史（日本）の講義
にもぐろうとしている（仏像の
解説をききたいため）

・実は甘いものも好き

・仲良くしている学生のレポー
トが出来だどがっかりする

ニセ情報をいかにも本当らしく私達に話してくださいるので安心してませう。先生に言われると、妙に説得力があるので、学生は「勉強になった」と思ってしまうのです。

皆さんも、本当の杉本先生を知る為に、ぜひ先生と旅行してみてください。楽しいですよ！

(糸川 さくら)

仙人みたいな先生だなあ。柔らかい語り口と穏やかな物腰の杉本先生を見た第一印象は、絵本に出てきた仙人だった。私が見た先生は、カレーや冷し中華を食べ、おいしそうにビールを飲む。鎌倉合宿のときは、江の電の

中で眠り、仏像を見にいった、インドや中国旅行の話聞かせてくれた。仙人とは全然違っていたけど、流れる時の速さが普通の人と違っていそうなどころは、仙人に似ていると思った。

これで、不老不死だったら、本当に仙人だろう。……

(石田 さおり)

杉本先生は、決して「今の若いモンは……」とおっしゃらないような先生でした。怒ったりいばったりしたところは一度も見たことはありません。そのかわり、手紙の返事をもう何年も書いていないとか、せっかく買ったカメラのフィルムの

出し方がわからないとか手帳をなくすから手帳はもたないとか、そういうおちゃめなところが多々あり、私はびっくりした反面、なんとなくうれしく身近に感じました。

そしてたまに見ることのできるあの少年のような笑顔が、杉本先生のお人柄すべてを表しているのだと思っています。

そんな先生を私は深く尊敬しております。

これからもお元気で、長生きされるよう、お祈りいたします。

(吉瀬 晶子)

・録音、録画マニア

・200枚以上買ったモーツァルトのCDを、まだ3枚しかきいていない

・集合時間に遅刻した理由……

「油断していた」

※編集部注

今回の〈特集2〉の原稿は杉本ゼミの学生諸君から、編集部宛にご好意で頂いたものです。

編 集 後 記

★ 「近藤忠義の業績は三つある。一つは歴史社会学派の道を拓いた『日本文学原論』の著作。もう一つは法政大学日本文学科の土台を築いたこと。さらにもう一つは猪野謙二を育てたことである。」

これは益田勝実元教授の、ある学会での言葉です。その猪野謙二先生が97年9月11日お亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を捧げさせていただきます。

46年から、又、神戸大学教授御就任後も60年代まで本学へ御出講いただきました。お教えを受けた会員諸兄弟を代表して、林尚男氏から猪野先生の思い出を書いています。いただきました。

★ 杉本先生、表先生をお送りすることになりました。両先生は、学内のみならず学外での御活躍もめざましく、このささやかな特集号を編むに当り、斯界の著名な先生方からも御寄稿いただくことができました。まことにありがとうございます。

★ 蛇足ながら、ここに編集子も一言、両先生の思い出を書かせていただきます。

★ 杉本先生からは『御伽草子』をお習いしました。まだ助手時代で、結襟姿でいらっしやいました。編集子は「あきみち」を発表し、大いにほめられました。それで、そ

の後も研鑽を怠らず、先日再び先生に「あきみち」の質問を申し上げたましたところ、「そういうことは、みんな忘れた。」うーん。このひょうひょうたるお人柄の奥深さ！

★ 表先生はいかめしい先生でした。教室で教わったことはありませんが、何となくそうでした。編集子の院生時代、本間泉さんという先輩がいて、「お前のようなやつは表先生の話を聞かなければだめだ」といつて、ご親切にも研究会風のもの組織してくれ、表先生からお教えを受けることとなりました。テキストは、何か中世の戯れ句のようなもので、いろいろ教わったのですが、そういうことは、みんな忘れえました。ただ、表先生は暖かな先生でした。そのことを覚えていきます。

★ さて、卒業生のみなさん。よき師よき友の母校を忘れないでください。ここしばらく就職は大変かもしれませんが、人間一人生きるくらい、何とかなるはずです。―戦中少国民の言葉ですから信じてください―そして、どうか『日本文学誌要』を購読し、勉強を続けてください。御健康をお祈りいたします。(田中)

編集部人員交代のお知らせ。本号より島本昌一氏に代わり大越氏から入部していただきました。島本さん長い間ありがとうございました。

一九九八年三月二十四日 発行	
日本文学誌要 第五七号	
編集部	坂本 勝 萩原 一雄 大越 嘉七 田中 单之 杉本 圭三郎
発行人	杉本 圭三郎
発行所	東京都千代田区富士見二ノ 十七ノ一法政大学八十年館 法政大学国文学会 電話〇三(3264)九七五二
口座番号	〇〇一六〇一七六九四三
印刷所	ニチデン 電話〇四二三(九五)三七〇一